

~日常生活自立支援事業について~

医療連携・患者支援センター 神場 譲

2018年に政府より公表されたデータによると、現在の日本の高齢化率は28%となっており、約3人に1人が65歳以上となっております。高齢化率はどんどん上がると言われており、2040年には35%を超えると見込まれております。高齢化が進むことで様々な問題がすでに起こっており、その1つが高齢者を狙った詐欺問題です。その対策の1つに「日常生活自立支援事業」があり、判断能力の低下に伴い1人で金銭管理を行うことが不安になってきたとき、本人の契約に基づいて利用可能なものです。「日常生活自立支援事業」では福祉サービスの利用援助や日常生活の金銭管理を生活支援員に依頼することができます。実施主体は市町村の社会福祉協議会です。この他に「成年後見人制度」は認知症などで判断能力が著しく不十分な人に対して対応する制度もあります(下記表を参照下さい)。自分がどの部分をサポートしてもらいたいかによって使う制度を検討することも可能です。(状態によっては利用できる制度が限られる場合があります)。市町村の社会福祉協議会では利用に向けた相談も行っております。当院、医療連携・患者支援センターでも相談を承っておりますので、ご不明な点がありましたらご相談ください。

「日常生活自立支援事業」と「成年後見人制度」の違いについて

制度	日常生活自立支援事業	成年後見人制度
対象者	生活に不安がある人	判断能力が十分でない人
援助者	生活支援員	成年後見人等
相談窓口	市町村 社会福祉協議会	社会福祉事務所 地域包括支援センター
利用報酬	相談無料 援助は有料	家庭裁判所の判断
援助内容	生活に必要な金銭の出し入れ 福祉サービスの利用援助	財産管理人や身上監護に関する法律行為 (不動産の売買など)

外来受診のご案内

- 開院時間 8:10
- 受付時間 初診 8:30~11:00 再診 8:30~11:00
※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- 休診日 日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)
年末年始(12月29日~1月3日)
- 代表電話番号 043-462-8811
予約変更専用 043-462-0489(平日14時~16時)
- 健康保険証(原本)、その他の公費負担受給者証(原本)を必ず持参下さい。
- 各科外来担当医はホームページ
<http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp> をご覧ください。
- 当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院・大学付属病院です。臨床研修医および医学生・薬学生・看護学生のほか、医療関係各種学生・研修生の教育実習・研修が行なわれております。実習・研修は指導医・指導薬剤師・指導看護師や各職種指導者の監督のもとで行なわれますので、ご協力をお願い申し上げます。

編集後記

平成から令和と新しい年号になり1ヶ月余りがたち、平成生まれの佐倉病院も、新時代に突入しました。令和元年という4文字にまだ慣れていないのは、日本で戦争のなかった平成からの改元がスムーズだったこともあり、まだ新時代を実感できていないからかもしれません。来年のオリンピックでは世界中が日本に注目し盛り上がっていくと思いますが、平成に続いて令和でも、さらに平和が実感できる時代が続くことを願っています。

(皮膚科 横口)

東邦大学医療センター佐倉病院
～患者さんと病院を結ぶ情報誌～

SAKURAdayori



東邦大学
NATURE LIFE MAN

**東邦大学医療センター
佐倉病院の基本理念**

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

肥満外科治療 — NHKワールドで世界に発信 —

東邦大学医療センター佐倉病院 副院長／糖尿病内分泌代謝センター 教授 龍野 一郎



肥満は万病のもとであり、おおきな社会問題となっています。

肥満改善のための減量治療法としては運動・食事・認知行動、それに薬物を加えた内科治療が基本ですが、体格指数(BMI)35以上の高度肥満患者では内科治療の効果は限られており、このため欧米では広く減量手術が行われてきました。肥満外科手術(減量手術)は美容整形的な脂肪吸引とは根本的に異なり、摂食制限を狙った胃バンド術、胃を細くする胃袖状手術(スリーブ術)、胃と腸をつなぎ変える胃バイパス手術の3法が代表的手法です。肥満外科手術の長期にわたる減量効果と安全性が証明され、米国では年間20万件、全世界で50万件を超える手術が行われています。

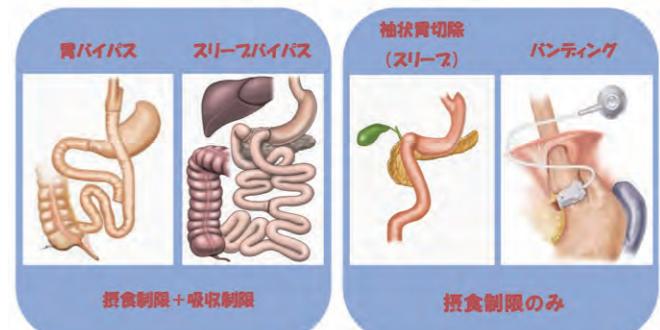
近年、肥満2型糖尿病患者に対しても術後体重の減少以上に、糖代謝改善が認められ、代謝手術とも呼ばれています。日本国内でも手術を必要とする高度肥満2型糖尿病患者が3万人も存在すると推定されていますが、2017年の国内の手術症例数は500例弱にとどまっており、早急な施設拡充などの対応が必要とされています。

東邦大学医療センター佐倉病院は統合的な肥満症治療で知られ、特に高度肥満患者さんの肥満外科手術につ

いても消化器外科とチーム医療で取り組み、全国の大学病院の中で最上位の手術数を誇っています。このような佐倉病院での肥満外科手術を含めた統合的な肥満症治療は全国的に注目を集め、2019年3月19日火曜日にNHKの海外向け放送であるNHKワールドの中で、日本の先端医療を紹介する「Medical Frontier」で取り上げられて30分番組として英語で放映されました。現在もインターネット上で視聴が可能ですので、ご覧いただければ幸いです。

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/en/ondemand/video/2050070/>

肥満外科手術



災害医療について



門屋 健吾 助教

平成31年4月13日7階講堂にて第3回公開講座が災害医療をテーマに開催されました。

今回はDMAT(災害医療派遣チーム)有資格者4人が各分野に別れて、災害医療体制と地域連携について、災害時における応急手当の実践方法、被災した際の内服薬の扱い方、被災地で行いうる運動療法について皆さんにお話ししました。

ここ10年の間に高確率でおこるとされている首都圏直下型地震に備えて、我々医療従事者が病院運営に混乱をきたさぬように平時からのシミュレーションを心がけることはもちろんのことではありますが、市民の皆様にも佐倉病院が地域の中核病院として、災害拠点病院としてどういった運営がなされているかを知りたい必要があります。指令体制云々までは必要ありませんが、災害医療について理解を深めるには良い機会だったと思います。実際に被災した際に、各々で対処可能であるものを自分達で応急処置ができれば来院傷病者数を減らすことができますし、移動に伴う二次災害をも防ぎ得ます。災害とは救護所・避難所でのインフラ不足、食料不足、薬の不足など混乱となりうる事が膨大な緊急事態です。避難の際にお薬手帳を持ち出せなかつた場合でも、皆さんがご自身の内服薬を、既往歴を把握さ



外科 門屋 健吾

れているだけでも対応する側の混乱は大幅に軽減されます。また、その場で運動をすることで肺塞栓、静脈血栓を予防することも非常に大切になってきます。

佐倉は他の地域と比較して甚大な被害がもたらされることはあまり想定されておりません。故に湾岸地域からの受け入れを求められる場面もでてくるものと思われます。その際に我々スタッフがいかに冷静に対応できるかが、市民の皆さんの健康と安心に直結してくるということを意識しながら日々の診療に携わっております。有事の際に皆さんの期待に応えられるような病院づくりをこれからも心掛けまいります。



会場の様子

2019年 公開講座のお知らせ（入場無料・申込不要・200席）

開催予定日	講演予定テーマ	担当
7月13日(土) 13:00~15:00	〈地域で考えるケアと治療〉 お酒とからだの付き合い方	〈脳神経内科・メンタルヘルスクリニック・脳神経外科・消化器内科・ソーシャルワーカー・看護部 他〉
8月 休会		休会
9月28日(土) 13:00~15:00	遺伝と病気	〈臨床遺伝診療センター〉 竹下 直樹 他
10月5日(土) 13:00~15:00	調整中	〈腎臓内科〉 大橋 靖 他
11月9日(土) 13:00~16:00	〈地域で考えるケアと治療〉 認知症とともに歩む“診断と治療”	〈脳神経内科・メンタルヘルスクリニック・脳神経外科・リハビリテーション部・ソーシャルワーカー・看護部 他〉

ご参加お待ちしております

ほぼ毎月、身近な疾患や症状をテーマにした公開講座を企画しております。多くの市民・医療関係者の皆様にご参加いただき、病気の予防や早期発見、地域医療の発展に役立てていただければと存じます。

♪夏祭りコンサート2019♪ 8月24日(土)15:00開演

正面玄関ホールにて職員による院内コンサートを行います。

演奏：トランペットとエレクトーン、ギター＆アンサンブル、フルクローラー、弦楽合奏

◎詳細は院内掲示にてご案内いたします。お楽しみください！



医療に見る高齢化－佐倉病院の現状－

副院長、医療連携・患者支援センター長 吉田 友英



吉田 友英 教授

令和元年初めての公開講座が5月11日土曜日に開催されました。

テーマは、【食と地域包括ケアでさえる高齢化社会－超高齢化地域の現状とその先進的取り組み】でした。

座長に当院副院長の龍野一郎先生、私が最初に“医療にみる高齢化－佐倉病院の現状－”をお話ししました。

そして、社会医療法人仁寿会 加藤病院院长の加藤節司先生が“島根県川本モデルにみる先進的地域包括ケアシステム”、島根大学医学部 特任教授の橋本道男先生が“高齢化社会を支える食”と題して講演をされました。日本では高齢化率(65歳以上の割合)は全国平均で26.6%となり超高齢社会となっており、佐倉市はさらに高い28.7%となっています。高齢化は地域医療だけでなく、社会基盤そのものにも大きな影響を与えます。島根県の山間部にある川本町は高齢化率が45%で、高齢化社会に向かって先進的な取り

組みをされてきており、高齢化社会を守るために地域包括ケアの取り組みと自然の恵みである食を通じた認知症の予防に焦点をあてたご講演でした。

ここで、私がお話ししました内容を少しご紹介させていただきます。5年前と比較してご高齢患者さんの入院が明らかにふえています。中でも昨年度多い入院疾患ベスト5は、老人性白内障(現在白内障は大部分を外来手術)、狭心症、前立腺がん、肺がん、心不全でした。また、退院後に別の病院への転院や介護施設や社会福祉施設への入所の割合も増加していました。これら退院後の調整は医療連携・患者支援センターの入退院支援部門の看護師、ソーシャルワーカーが行っております。また、入院前より退院の支援は始まっており、入院支援看護師が入院前からお話を聞かせていただき、患者さんが入院生活やどのような治療過程をたどるのかイメージし、準備した上で入院に臨めるようにしています。家庭で、地域で末永く生活ができるように、是非とも入退院支援部門をご利用いただくよう御願いいたします。

がん患者さんの交流の場：患者サロンのご案内



がん患者相談担当看護師 塚本 佳子



患者サロンの室内

現在、多くの病院でがん患者さんやそのご家族との交流を目的とした「患者サロン」が開催されています。当院でも平成29年5月より開催し、令和を迎えた今年は3年目の開催となります。昨年は年間通して6回開催し、延べ43名の方に参加いただきました。参加者の中には年間通して複数回参加してくださっている方も多く、患者さん同士の交流をとても楽しみにしてくれていることが伝わってきます。実際に、「参加してとても楽しかった」「次もぜひ参加したい」「いろんな人と話ができる元気がでた」などの感想が聞かれています。同じ病を体験された患者さん同士だからこそ、分かち合える思いや実体験として伝え合えるアドバイスがあります。新たな処置を受けることに悩んでいた方が、患者サロンに参加したことをきっかけに同じ体験をした方の話を聞き、処置を受けることを決断されたということもあります。患者サロンにおける参加者同士の交流の場面を見ていると、同じ病を体験された患者さんの話は、ときに、医療者からの説明や



アドバイスを超える説得力と安心感があると感じています。当院の患者サロンでは、話の聞き上手な方が多いためか、とても暖かな雰囲気のなかで、初めての方でもすぐに打ち解けておしゃべりを楽しんでいる様子が見られています。

ある患者さんが「以前は、こういった場に参加したいとは思わなかった。でも、今は参加してみたいと思えるようになった。」と話してくださいました。この記事を目にしてくださった方の中にも色々な思いの方がいると思います。様々な経過の中で、同じ病をもつ患者さんの意見を聞いてみたい、交流してみたいというお気持ちが出てきたときには、是非、「患者サロン」の存在を思い出してください。担当者一同、いつでもご参加をお待ちしています。令和元年の開催予定はポスターをご参照ください。